会期　2020 年12 月12 日(土) ～ 2021 年3 月21 日(日)

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35　西久保ビル

https://www.musee-tomo.or.jp

プレスプレビューのご案内は 7 頁をご覧ください。

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび当館では 2020 年 12 月 12 日（土）から 2021 年 3 月 21 日（日）までの会期にて、「鈴木藏（おさむ）の志野―造化（ぞうか）にしたがひて、四時（しいじ）を友とす」展を開催いたします。本展は長年にわたり志野焼に取り組み、優れた作品を生み出してきた陶芸家・鈴木藏（1934 年～、重要無形文化財「志野」保持者）の仕事を、未発表の新作志野茶碗を中心にご紹介するものです。つきましては、本リリースにて展覧会の概要、展示内容等をお知らせいたします。未だコロナ禍が続く困難な状況ではございますが、ひとりでも多くのお客様にこの展覧会にお運びいただきたく、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

■展覧会概要■

展覧会タイトル：
「鈴木藏（おさむ）の志野―造化（ぞうか）にしたがひて、四時（しいじ）を友とす」

〇会　期　**2020 年 12 月 12 日(土) ～ 2021 年 3 月 21 日(日)**　※当初の会期より変更
〇主　催　公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
〇会　場　菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4－1－35　西久保ビル）
https://www.musee-tomo.or.jp
〇観覧料　一般 1,100 円／大学生 800 円／小中高生 500 円
〇開館時間　午前 11 時から午後 6 時まで（入館は午後 5 時 30 分まで）
〇休館日　月曜日（ただし 1 月 11 日は開館）、1 月 12 日（火）、
年末年始[12 月 28 日～2021 年 1 月 1 日]
〇展示内容　新作を中心に、陶芸家・鈴木藏（1934～）の仕事を紹介する展覧会。
本展の為に作られた未発表の志野茶碗の他、水指、花生、大型作品などの作品、また一部旧作、特別出品作などを加え凡そ 60 点程を展示。
（会期中、展示替えの予定あり）

展覧会に関するお問い合わせ　☎03-5733-5131／FAX：03-5733-5132
（展覧会担当：高田）

■展覧会のご案内－作家と作品について

作家紹介：

鈴木藏（1934 年～）は、岐阜県土岐市で生まれ、郷里のやきものである「志野」に 60 年以上にわたって取り組み続ける、現代志野を代表する作家のひとりです。釉薬技師だった父の下で製陶や釉薬の技術を学んだ鈴木は、20 代半ばより作品制作入り志野に取り組むと、数々の陶芸展で賞を重ね、1994 年には志野の重要無形文化財保持者に認定されるなど評価を高めました。

（1）「志野茶碗」2018 年

志野は、長石の白釉に、地元で採れるざんぐりとした焼け味の土を合わせることで生まれる温かみのある白や、窯の熱により引き出される鮮やかな緋色が魅力のやきものです。桃山から江戸時代初期にかけて優れた茶陶や食器が生産された後、技術が途絶えていたものが、昭和初期になり陶芸家や学者、愛好家らに注目され、研究、復興が進みました。歪みをもった独特な形、絵付けや象嵌など装飾技法を駆使した斬新なデザインなど、当時の陶工たちの創意を伝える桃山の志野は、現在でも多くの陶芸家が目標とする存在です。

鈴木はそうした過去の優品や先達の仕事から学びつつも、単に古陶の形や制作技法を伝統として踏襲するのではなく、現代性を持った志野を生み出すことに挑み続けてきました。その作陶姿勢を端的に示すのが、志野は焼き上がりの問題から薪窯焼成するのが最良と考えられていたのに対し、鈴木は作家として独立した 1960 年代当初より一貫してガス窯を導入し、新しい技術を用いて土や釉薬試験を重ね、志野の焼きを追究したことです。長年の試行錯誤を経て改良された、独自のガス窯を用いて焼成される鈴木の志野は、作家ならではの力強い造形、味わい深い土や釉薬の調子に多彩な装飾技法が盛り込まれ、独特の存在感を放ちます。

展覧会では本展のために作り溜められた志野茶碗を中心として花生、香炉、大型作品などの新作に一部旧作を加え、60 点程の作品をご紹介いたします。

左（2）「志野茶碗」2018 年 ／ 中（3）「志野香炉」2020 年 ／ 右（4）「志野茶碗」2017 年

長石釉のぽってりとした質感、温かみのある白の美しさがそのまま表れた無地志野の茶碗（2）、鉄化粧により全体が鼠色を帯び、さらに焼成によって鮮やかな緋色が表れた赤志野の香炉（中）や、瑞々しい艶をみせる鼠志野の茶碗（右）など、展示では鈴木の取り組む様々な志野のバリエーションが並びます。

作品紹介：

松尾芭蕉の「笈(おい)の小文(こぶみ)」より言葉が取られた本展の副題は、現代に生きる作り手として創意を尽くしながら、その先に生まれる不易のかたちを目指す、という作家の姿勢を示しています。そしてその作陶においてとくに志野茶碗は、茶の湯を媒介にした先人たちの文化的営みの歴史、日本文化の底流につながるものとして鈴木のライフワークとなっている仕事です。志野に挑むからには、茶碗は自ずと取り組まねばならないテーマだった、という作家が茶碗だけで個展を開いたのは 40 歳頃のこと。以来、志野を中心に個展や毎年の日本伝統工芸展にて、新作茶碗が発表されてきました。ロクロやタタラ（板作り）で成形したボディにヘラを用い、大胆な変形や細やかな削ぎを加えて形の強さを追究し、加飾においては鉄絵や象嵌、釉描など様々な技法を盛り込む等、茶碗における創作の試みは 40 年以上にわたり、86 歳を迎える現在も変わることなく続けられています。これらの茶碗は鈴木藏という作家の作為や意思を伝える一方、茶碗としての複雑さに富んでおり、向き合う者に様々な想像や思索を促す力を備えています。

（5）「志野茶碗」2019 年
ロクロで成形した半筒形の器形に赤松のヘラで削ぎを入れ、歪みを加えている。腰の張った力強い形に、釉下に描かれた鉄絵による荒々しい抽象文様が効果をあげている。

（6）「志野茶碗」 2017 年
収縮率を合わせた色味の異なる三種類の土を用いて、象嵌して模様を表している。「継ぎ色紙風」と作家が呼んでいる技法効果がモダンな印象を生む一碗。タタラ成形。

多治見市虎渓山町の作家工房に据えられたガス窯：

赤松の割木を削り手作りされたヘラ

桃山の時代に倣い薪を燃料とする穴窯で焼くことが最上とされてきた志野において、鈴木は 1960 年代から普及し始めたガス窯を先駆的に用い作陶に取り組んでいます。ガスを用いながらも焼きの味わいを引き出すために工夫と改良が重ねられた鈴木の窯は現在 4 台目となり、窯壁の厚さが 1m ほどにもなる特殊な形状をしています。志野茶碗はこの窯で 5 日間の焼成の後、徐冷にも 5 日間程度をかけ焼き上げられます。

■作家略歴　鈴木 藏（おさむ）（1934～）

1934　岐阜県土岐郡駄知町（現・土岐市）に生まれる。
1961　第 10 回現代日本陶芸展で朝日新聞社賞第一席を受賞。
　　第 8 回日本伝統工芸展で日本放送協会会長賞受賞。
1962　プラハ国際陶芸展でグランプリ受賞。
1982　日本陶磁協会賞金賞受賞。
1994　重要無形文化財「志野」の技術保持者に認定される。
1998　パリにて「鈴木藏展」開催（主催：朝日新聞。パリ、三越エトワール）。
2000　日本工芸会陶芸部会長及び、常任理事となる。
2006　「鈴木藏展」（岐阜県現代陶芸美術館）。旭日中綬章受章。
2009　「不二の志埜　人間国宝・鈴木藏展」（日本橋髙島屋、他各店）
2010　「第 3 回　智美術館大賞現代の茶展」にて優秀賞受賞（菊池寛実記念　智美術館）。
2010「流旅転生　鈴木藏の志埜展」（菊池寛実記念　智美術館）
2015「人間国宝二人展—やきもの と おりもの　鈴木 藏・北村武資」（銀座和光、他巡回）。
2018　髙島屋美術部創設 110 年記念「人間国宝鈴木藏展」（日本橋髙島屋、他各店）

■関連行事

学芸員によるギャラリー・トーク

ギャラリトークの具体的な開催日時等の情報は、当館 web サイトにてお知らせします。
最新情報は当館 HP　https://www.musee-tomo.or.jp/event をご覧ください。

智美術館では平常通り事前予約不要にてご観覧いただいておりますが、ご来館のお客様には、当館の新型コロナウイルス感染拡大防止対策のご確認とご協力をお願いしております。

【ご来館のお客様へお願い】
1. 発熱や風邪の症状のある方は、ご来館をお控えください。
2. マスクの着用をお願い致します。
3. 手指の消毒、手洗いにご協力ください。
4. 館内では他のお客様と間隔をあけて(2メートル程度)ご鑑賞ください。また、展示室内での会話や長時間の滞在はお控えください。
5. 混雑時には、ご入場を制限させていただく場合もございます。予めご了承ください。

【当館の取り組みについて】
1. 入口に手指消毒用のアルコールを設置しております。
2. 受付カウンターにはアクリル板を設置し、飛沫感染防止を図っております。
3. 感染予防のため、スタッフはマスクおよびフェイスガードを着用する場合がございます。
4. 多くのお客様が手を触れる箇所の消毒を強化しております。

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を 1 点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先　菊池寛実記念 智美術館(足立)
TEL.03(5733)5131　FAX.03(5733)5132　https://www.musee-tomo.or.jp/

掲載・画像貸出申込書
返信先 FAX：０３－５７３３－５１３２

●貴社基本情報

会社名：	
担当部署：	担当者名：
住所：	
電話	ファックス：
E-MAIL：	

●媒体情報

新聞	媒体名：	
雑誌	発行日：	発売日：
TV	媒体名：	
ラジオ	放送日：	放送時間：
ネット	URL：	

●画像貸出リスト　※キャプションには作者名・作品名・制作年・撮影者を必ず入れてください。

希望に☑	作品キャプション
□	1）鈴木藏「志野茶碗」2018 年　（撮影: 白井亮）
□	2）鈴木藏「志野茶碗」2018 年（撮影: 白井亮）
□	3）鈴木藏「志野香炉」2020 年　（撮影: 白井亮）
□	4）鈴木藏「志野茶碗」2017 年　（撮影: 白井亮）
□	5）鈴木藏「志野茶碗」2019 年　（撮影: 白井亮）
□	6）鈴木藏「志野茶碗」2017 年　（撮影: 白井亮）

●読者プレゼント用チケット希望：　□5 組 10 名様　□10 組 20 名様

プレスプレビューのご案内

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から本展では内覧会を行わないことといたしましたが、
プレスの皆様にむけてプレビューを開催し、展覧会の趣旨、作品などについてご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー 2020 年 12 月 11 日(金) 14:00 ～

当日は作家の鈴木藏氏もご同席される予定ですので、取材・インタビューなどお受けいたします＊

14:00 ～14:45　展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。
展覧会、会場内をご撮影いただけます。

14:45 ～15:00　皆様からのご質問にお答えいたします。

＊やむを得ず予定が変更となる可能性がございますこと予めご了承ください。

会場: 菊池寛実記念 智美術館 (〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1)

・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分／虎ノ門ヒルズ駅出口 A1・A2 出口より徒歩 8 分
・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
・銀座線・虎ノ門駅: 出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX にて
ご返信下さい。**返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名:	
担当部署、氏名	
住所:	
電話:	**FAX:**
Email	